

# 平成30年度事業計画

公益財団法人 びわ湖芸術文化財団

## 1 基本方針

滋賀県域全体の文化振興施策を総合的に推進する「公益財団法人びわ湖芸術文化財団」として2年目となる平成30年度においては、滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール、滋賀県立文化産業交流会館ともに、滋賀県から受託している指定管理（5年間）の3年目として、前年度に策定した中期経営計画に基づき、滋賀県文化振興基本方針（第2次）の基本目標「滋賀の文化力を高め、発信することで地域が元気になっていく姿」を実現するため、財団統合による強みや特徴を活かし、広い視野で効率的・効果的に事業展開する。

## 2 事業計画

### (1) 法人本部

県内の文化ホール、文化活動者・文化団体、学校、企業や地域等とのネットワークを充実し、協働連携のもと、県民誰もが身近に文化芸術に触れられる機会を提供する。

また、県民の創作活動の発表や鑑賞の場、文化情報の提供、さらに東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に滋賀の魅力を発信する「文化プログラム」の実施など、文化で元気な滋賀の実現を目指す。

#### ア 自主事業

全県域を対象に、県内文化ホール等と情報共有や職員のスキルアップを図り協働連携しながら、本県出身のアーティストを発掘・育成する事業を展開する。

市町ホール等と連携し「近江の春 びわ湖クラシック音楽祭」が県内各地で開催される音楽祭となるように推進を図るほか、若手演奏家に発表の機会を提供する「滋賀県ピアノコンクール」等の開催、医療福祉施設における「ホスピタルコンサート」の開催、県内文化ホールとのネットワークの構築や活性化を目指す「滋賀県アートコラボレーション事業」の実施、本県の魅力ある文化的遺産をホームページにより発信する「滋賀文化のスヌメ」の運営等を行う。

#### イ 受託事業

滋賀県芸術文化祭開催事業、湖国文化情報紙「れいかる」の編集発行等の県内文化情報提供事業、文化プログラムフェスティバル事業を受託する。

#### ウ 独自事業

総合文化誌「湖国と文化」の編集発行等を行う。

### (2) びわ湖ホール

県民が舞台芸術に親しむ機会を提供するとともに、舞台芸術の振興および普及を図り、県民の文化の向上に資するという滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールの設置目的に則り、音楽、歌劇、演劇、舞踊、古典芸能等の舞台芸術公演および鑑賞教室や研修等、舞台芸術普及のための事業を企画・実施するとともに、ホール、練習室等の貸館業務および施設の管理運営等を行う。

#### ア 自主事業

大ホールにおいて、開館20周年記念公演として、マーラー作曲「千人の交響曲」を演奏するほか、びわ湖ホール・プロデュースオペラ「ジークフリート」や、沼尻竜典オペラセレクション「魔笛」をはじめとしたオペラやバレエ、オーケストラなど11事業13公演を、中ホールにおいて、びわ湖ホール声楽アンサンブルに

よる「オペラへの招待」のほか、演劇、狂言、歌舞伎など11事業17公演を、小ホールにおいて、室内楽、専属声楽アンサンブル定期公演など8事業11公演を実施する。

また、普及事業として、舞台芸術の普及を図るため、ロビーコンサート、オペラ入門講座、公演に関連したワークショップやプレトークなどを実施するとともに、次世代を担う青少年が本物の舞台芸術に触れる機会を提供する「びわ湖ホール音楽会へ出かけよう！」ホールの子事業を引き続き実施する。

また、誰もが気軽に音楽を楽しむ音楽祭「近江の春 びわ湖クラシック音楽祭」や、地域との連携で取り組む「びわ湖大津秋の音楽祭」などにより、賑わいづくりを進める。

また、びわ湖ホール声楽アンサンブルが「オペラへの招待」などのソリストおよび合唱を担うとともに、定期公演や「びわ湖ホール音楽会へ出かけよう！」ホールの子事業、「学校巡回公演」などの各種自主事業や、県内外での依頼公演への出演を行う。

#### イ 広報マーケティング

びわ湖ホールからの情報発信とチケットの販売促進を図るため、パブリシティ活動、情報誌の発行、新聞4紙への寄稿のほか、新聞・雑誌・電波等による広告、インターネットなどによる幅広い広報活動を行うとともに、協賛支援の確保や貸館についての営業活動を展開する。

また、インターネットによるチケット販売をはじめ、これまで蓄積した顧客リストの有効活用や組織販売にも力を入れながら、チケットの効果的な販売活動を行い、顧客の拡大に努める。

また、顧客の拡大・定着を図り、チケット販売等を促進するため、引き続き定期的な情報提供や友の会会員向けチケット価格の設定等のサービスを行うとともに、友の会会員（一般会員・サポート会員・特別会員）の拡大に努める。

さらに、人のネットワークによる観客創造を目的として、劇場サポーターを対象に研修を行うとともに、青少年の舞台芸術への関心を高めるため、引き続きシアターメイツ会員を募集し、一部公演のチケットの割引販売、立ち稽古等の見学会を実施する。また、多くの人びわ湖ホールへの親しみを持つことを目的に館内見学ツアー（まるっとステージツアー）を実施するほか、舞台芸術情報サロンの運営等を行う。

#### (3) 滋賀県立文化産業交流会館

県立文化施設における北の拠点として、地域や施設の特性を生かし、優れた舞台芸術の創造や文化、産業の振興に努めるとともに、ホール、会議室等の貸館業務、SOHO施設の提供および施設の管理運営等を行う。

また、開館30周年を記念して、特設舞台「長栄座」の歌舞伎公演のほか、各種記念事業を開催する。

#### ア 自主事業

引き続き文化庁「劇場・音楽堂等機能強化推進事業」の採択を受けた特設舞台「長栄座」での邦楽・邦舞の自主制作公演、邦楽を中心とした実演家の養成や古典芸能キッズワークショップを行うとともに、子どもたちがコミュニケーションを築きながら取り組む「次世代育成ユースシアター事業」や小中学校および特別支援学校へアーティストを派遣する「アートのじかん」、映像と音楽等を組み合わせた「フィールドアート Media Mix 2019」、県民の企画提案による舞台公演などを開催する。

また、産業分野との連携により起業を目指す人たちの情報交換会「ビジネスカフェ in 文化産業交流会館」や「近江のあたらしい伝統産業展」を実施する。

#### イ 広報

ホームページおよびSNSによる発信、新聞社へのプレスリリースなどを行うほか、ダイレクトメールやメールマガジンなどの情報配信による広報活動を実施する。また、インターネットによるチケット販売をはじめ、連続公演の割引制度の導入などサービスの向上に取り組む。

# 収 支 予 算 書

自 平成 30 年 4 月 1 日

至 平成 31 年 3 月 31 日

(単位 千円)

科 目	本 年 度	前 年 度	比 較	備 考
<b>I 一般正味財産増減の部</b>				
1 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益	476	478	△	2
受取会費	21,950	21,100		850
利用料金収益	230,908	230,755		153
事業収益	354,386	372,236	△	17,850
受取補助金等	1,569,058	1,692,436	△	123,378
受取寄付金	17,385	16,200		1,185
雑収益	145,535	123,213		22,322
経常収益計	2,339,698	2,456,418	△	116,720
(2) 経常費用				
事業費	2,376,193	2,489,053	△	112,860
管理費	11,615	10,671		944
経常費用計	2,387,808	2,499,724	△	111,916
(うち人件費)	559,919	559,855		64
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 48,110	△ 43,306	△	4,804
評価損益等計	-	-		-
当期経常増減額	△ 48,110	△ 43,306	△	4,804
2 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
指定正味財産からの振替額	-	40,880	△	40,880
経常外収益計	-	40,880	△	40,880
(2) 経常外費用				
経常外費用計	-	-		-
当期経常外増減額	-	40,880	△	40,880
税引前当期一般正味財産増減額	△ 48,110	△ 2,426	△	45,684
法人税、住民税及び事業税	72	72		-
当期一般正味財産増減額	△ 48,182	△ 2,498	△	45,684
一般正味財産期首残高	354,948	342,085		12,863
一般正味財産期末残高	306,766	339,587	△	32,821
<b>II 指定正味財産増減の部</b>				
受取寄付金	16,392	90,789	△	74,397
一般正味財産への振替額	△ 17,385	△ 57,080		39,695
当期指定正味財産増減額	△ 993	33,709	△	34,702
指定正味財産期首残高	188,501	128,351		60,150
指定正味財産期末残高	187,508	162,060		25,448
<b>III 正味財産期末残高</b>	494,274	501,647	△	7,373

# 収 支 予 算 書 内 訳 表

自 平成 30 年 4 月 1 日  
至 平成 31 年 3 月 31 日

(単位 千円)

科 目	公益目的 事業会計	収益事業 等 会 計	法人会計	内 部 取 引 消 去	合 計
<b>I 一般正味財産増減の部</b>					
1 経常増減の部					
(1) 経常収益					
基本財産運用益	238	-	238	-	476
受取会費	10,975	-	10,975	-	21,950
利用料金収益	119,962	110,946	-	-	230,908
事業収益	354,386	-	-	-	354,386
受取補助金等	1,472,022	97,036	-	-	1,569,058
受取寄付金	17,385	-	-	-	17,385
雑収益	16,130	129,379	26	-	145,535
経常収益計	1,991,098	337,361	11,239	-	2,339,698
(2) 経常費用					
事業費	2,090,740	285,453	-	-	2,376,193
管理費	-	-	11,615	-	11,615
経常費用計	2,090,740	285,453	11,615	-	2,387,808
(うち人件費)	487,196	68,621	4,102	-	559,919
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 99,642	51,908	△ 376	-	△ 48,110
評価損益等計	-	-	-	-	-
当期経常増減額	△ 99,642	51,908	△ 376	-	△ 48,110
他会計振替額	50,513	△ 51,908	1,395	-	-
税引前当期一般正味財産増減額	△ 49,129	-	1,019	-	△ 48,110
法人税、住民税及び事業税	-	72	-	-	72
当期一般正味財産増減額	△ 49,129	△ 72	1,019	-	△ 48,182
一般正味財産期首残高	271,285	43,982	39,681	-	354,948
一般正味財産期末残高	222,156	43,910	40,700	-	306,766
<b>II 指定正味財産増減の部</b>					
受取寄付金	16,392	-	-	-	16,392
一般正味財産への振替額	△ 17,385	-	-	-	△ 17,385
当期指定正味財産増減額	△ 993	-	-	-	△ 993
指定正味財産期首残高	125,550	1,651	61,300	-	188,501
指定正味財産期末残高	124,557	1,651	61,300	-	187,508
<b>III 正味財産期末残高</b>	346,713	45,561	102,000	-	494,274

# 資金調達および設備投資の見込みについて

自 平成 30 年 4 月 1 日

至 平成 31 年 3 月 31 日

## 1 資金調達の見込みについて

なし

## 2 設備投資の見込みについて

なし

# 平成29年度事業報告

## 公益財団法人 びわ湖芸術文化財団

芸術文化の創造と振興を図ってきた「公益財団法人びわ湖ホール」と、多様な文化事業を推進してきた「公益財団法人滋賀県文化振興事業団」の文化芸術部門とを統合し、それぞれの強みを生かして県域全体の文化振興施策を総合的に推進するため、「公益財団法人びわ湖芸術文化財団」を平成29年4月1日に設立した。運営には、常勤の役員、職員合わせて約100名を擁し、法人本部、びわ湖ホール、文化産業交流会館の組織体制をとっている。

### 1 法人本部

#### (1) 自主事業等

全県域を対象に事業展開し、県内の文化ホール、文化活動者・文化団体、学校、企業や地域等とのネットワークを充実し、協働連携のもと、県民誰もが身近に文化芸術に触れられる機会を提供した。県内文化ホールと協働連携する「アートコラボレーション事業」を中心に、滋賀県芸術文化祭、湖国文化情報紙「れいかる」の編集・発行、新生美術館見本市、文化プログラムフェスティバル事業を滋賀県から受託し、また、県の補助を受け、近江歴史回廊推進協議会や「文化・経済フォーラム滋賀」の事務局を担うなど、県民や文化団体・関係機関等と連携しながら各種事業を行った。創刊40年を迎えた独自事業の総合文化誌「湖国と文化」を編集・発行し、引き続き、県内の身近な文化資源の紹介や文化・芸術情報を編集・発行し、県民に提供した。

区 分		事業数	公演数	入場者数（人）
自 主 事 業	人 材 養 成	3	5	4,497
	普 及 啓 発	2	3	518
	協 働 連 携	18	38	8,604
	情 報 提 供	2	—	—
	計	25	46	13,619
受 託 事 業		4	9	389,201
県 補 助 事 業		1	—	—
独 自 事 業		2	—	—
計		32	55	402,820

### 2 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

#### (1) 自主事業等

##### ア 自主事業

滋賀の魅力国内外に発信するとともに、世代を超えて誰もが舞台芸術の楽しみを味わい、繰り返し来館されるホールを目指し、特色ある施設機能を生かして、国内外の劇場との共同制作による「プロデュースオペラ」をはじめ、オペラ、コンサート、バレエ、ダンス、演劇、古典芸能等の多彩なジャンルで国内外の優

れた公演を開催した。

また、びわ湖ホールがより身近なホールとして親しまれるよう、音楽祭「ラ・フォル・ジュルネびわ湖2017」、「びわ湖大津秋の音楽祭」を開催したほか、ロビーコンサートの実施、自主制作オペラの開催に併せたリハーサル見学会などに多数の来場があった。オペラ初心者にも楽しんでいただける「オペラへの招待」のほか、県教育委員会等との連携事業「びわ湖ホール音楽会へ出かけよう！」ホールの子事業等を実施し、次世代を担う青少年が音楽や舞台芸術に触れる機会の提供に努めるとともに、オペラ入門講座・古典芸能講座や公演に関連したプレトーク、ワークショップを開催するなど広く舞台芸術の普及を図るための事業を行った。

さらに、将来のオペラ界を担う人材を育成するため、「オペラ指揮者セミナー」や「ドイツ歌曲研修」を実施した。

区 分		事業数	公演数	入場者数(人)
自主 公演	大ホール	13	20	28,540
	中ホール	11	23	13,099
	小ホール	8	19	5,546
	その他	2	7	3,696
	計	34	69	50,881
普及事業		26	159	48,285
共催等		19	42	20,902
計		79	270	120,068

#### イ 専属声楽アンサンブル運営

びわ湖ホールの創造活動の核として、びわ湖ホール声楽アンサンブルが「オペラへの招待」や「沼尻竜典オペラセレクション」のソリストや合唱を担うとともに、定期演奏会をはじめ、各種自主事業等に出演した。また、県教育委員会等と連携し、「びわ湖ホール音楽会に出かけよう！」ホールの子事業や学校の体育館等でコンサートを行う学校巡回公演等を行うとともに、地域のホールとの協働公演を実施した。さらに、各地で依頼公演として各種のコンサートを行った。

#### ウ ネットワークの形成

県公立文化施設協議会の会長館として、館長会議を開催したほか、びわ湖舞台芸術スタッフセミナーとしてアートマネジメント研修などを実施し、県内公立文化施設のネットワーク形成や職員のスキルアップに努めた。

### (2) 広報マーケティング

#### ア 広報営業

びわ湖ホールからの情報発信とチケットの販売促進を図るため、公演チケット情報「Stage」や舞台芸術情報誌「湖響」の発行をはじめ、パブリシティ活動、ホームページや新聞5紙への寄稿、新聞・雑誌・電波等による情報提供や広告など幅広い広報活動を行うとともに、協賛の募集やスポンサーの確保、貸館についての営業活動を行った。

#### イ チケット販売

組織販売に力を入れるなど、チケットの効果的な販売活動を行うとともに、インターネットによるチケッ

トの予約購入、クレジットでの決済、コンビニエンスストアでのチケットの受取など利便性の高いサービスを提供することにより、顧客の拡大に努めた。また、コアなファン向けに平成27年度に設定したSS席を継続した。さらに、U30席（30歳以下料金）、U24席（24歳以下料金）を継続するとともに、ほぼ全ての公演に青少年料金（25歳未満）を設けるなど、青少年が本物の舞台芸術に触れる機会を増やすことに努めた。

ウ 施設利用促進

顧客法人等への営業活動により新規顧客の開拓や既利用者の継続的利用など施設の利用促進に努めた。

エ 友の会運営

顧客の拡大・定着を図り、チケット販売等を促進するため、友の会一般会員、特別会員およびサポート会員を募集し、情報の提供とチケットの優先販売を行った。また、友の会会員価格を設定するなど会員向けサービスの向上に努めた。

会 員 数（平成30年3月末現在）

一般会員 3,021人（クレジット会員 1,389人、非クレジット会員 1,632人）  
 サポート会員 281者 298口  
 特別会員 114者 140口

オ 人と人とのネットワークづくり

(ア) 劇場サポーター運営

人のネットワークによる観客創造を目的に、第1期から第22期までの劇場サポーター97人の研修を行い、サポーター活動の実践を通じ舞台芸術の普及に努めるとともに、第23期サポーターの募集・選考を行った。

(イ) シアターメイツ

青少年の舞台芸術への関心を高めるため、6歳以上18歳以下の青少年を対象にシアターメイツ会員を募集し、ワークショップや稽古見学会を実施した。

(ウ) 舞台芸術情報サロン・館内見学ツアー等

誰もが気軽に舞台芸術に関する情報に触れられるよう、舞台芸術情報サロンを運営し、各種サービスの提供を行うとともに、多くの人びわ湖ホールへの親しみを持つことを目的に館内見学ツアー（まるっとステージツアー）を実施した。

カ びわ湖ホール舞台芸術基金

舞台芸術の創造と発展の支援の受け皿である基金の周知を図るとともに「ニーベルングの指環」4部作への寄付者には特典を用意するなど、寄付獲得に努めた。また、オンライン寄付システムの運用、税額控除の優遇を受けられる法人証明の取得など寄付しやすい環境づくりに努めた。

(3) 貸 館 事 業

利用者の立場に立ったきめの細かい対応を徹底し、リピーターの確保を含め貸館利用の促進に努めた。

区 分	貸館利用件数	入 場 者 数(人)
大 ホ ー ル	76	102,925
中 ホ ー ル	45	23,339
小 ホ ー ル	106	14,945
計	227	141,209

(4) 管 理 運 営



指定管理者として、建物・設備の良好な維持管理にあたるとともに、効率的な管理を行い経費の節減を図った。

各ホールのほかりハーサル室、練習室、研修室、駐車場等が有効かつ安全に利用されるよう努めた。

駐車場の平成29年度の総利用台数は、71,867台であった。

### 3 滋賀県立文化産業交流会館

#### (1) 自主事業等

##### ア 自主事業

びわ湖ホールと連携のもと、県北部の拠点として、多目的に利用できるイベントホールを活かした公演や展示会等の利用で賑わいを創出し、より身近で親しまれる会館として多方面から参加いただけるように6つのジャンルに事業内容を分けて、文化振興および産業振興を推進した。

特設舞台として再現した芝居小屋「長栄座」における邦楽・邦舞の公演事業を中心に、邦楽・邦舞の実演家やアートマネジメント人材の養成事業、次世代を担う小学生を対象にした古典芸能キッズワークショップや音楽家の学校派遣等を行う普及啓発事業、県民提案を活用して協働で実施する連携事業、ポップコンサート等の鑑賞事業や県内の伝統産業や地場産業を紹介する展示会や起業家向けの支援講座等の産業振興事業等をそれぞれ開催した。

区分	事業数	公演数	入場者数(人)
公演制作	2	2	471
人材養成	3	3	1,563
普及啓発	3	21	3,019
協働連携	3	9	1,304
鑑賞	6	6	4,851
産業振興	2	6	3,483
計	19	47	14,691

##### イ ネットワークの形成

県民から鑑賞事業の企画を募る協働事業、滋賀にゆかりのある新進演奏家の主催事業への出演、起業家を対象にしたセミナーの開催、滋賀県内の伝統産業や特産品等の展示即売会を実施するなど多方面で人的なネットワーク形成に努めた。

#### (2) 広報マーケティング

##### ア 広報営業

施設利用の拡大および公演チケットの販売促進のため、ホームページ、SNS等を活用した情報発信や、びわ湖ホールが発行する舞台芸術情報誌「湖響」内の「えいじゃに」コーナーへの文化産業交流会館情報の掲載をはじめ、新聞社へのプレスリリース、新聞・情報誌・メディア等への広告掲載、ダイレクトメールや会員へのメールマガジンの配信など、広範囲にわたる広報活動を積極的に行った。

また、基金や協賛団体の確保のための営業活動を行った。

##### イ チケット販売

イベントホールで開催する鑑賞事業については各プレイガイドで先行受付を行うなど販売促進に努めたほか、個人を対象にしたインターネットでの会員制購入システムについては、加入しやすい内容に変更し、さらに利便性の向上を図った。また、今までに蓄積した顧客情報（アートフレンド・アンケート）を活用し、ダイレクトメールのほかパソコンやスマートフォンへチケット情報の案内をメール配信するなど、効果的なチケットの販売活動を行った。チケット受取や決済の方法についても、コンビニエンスストアでの受取やクレジットカード決済などで利便性を高め、顧客の拡大に努めた。

インターネット会員数（平成30年3月末現在） 2,947人

ウ メールマガジン「アートフレンド」運営

文化産業交流会館の新規顧客やチケット販売数の拡大を図るため、引き続きアートフレンド会員を募集し、定期的な会員向けの情報提供を行った。

アートフレンド会員数（平成30年3月末現在） 1,212人

(3) 貸 館 事 業

利用者の立場に立ったきめの細かい対応を徹底し、リピーターの確保を含め貸館利用の促進に努めた。

区 分	貸館利用件数	入 場 者 数(人)
イベントホール	147	78,964
小 劇 場	63	7,139
会議室・練習室	678	39,765
計	888	125,868

(4) 管 理 運 営

多様な方々が利用する公共施設として、適正で適切な人材を配置し、文化利用および産業利用の両面においてフレキシブルに対応し、今後の新規開拓はもとよりリピーターの確保を含め施設利用の促進に努めた。

ア ホール等の管理運営

安全・安心な施設や設備の維持管理にあたるとともに、効率的な管理を行い質の高いサービスの提供を行った。また、各ホールのほか練習室、会議室、駐車場等が有効かつ安全に利用されるよう努めた。

イ 来館者サービス

総合文化誌「湖国と文化」や、印紙・証紙・切手・はがきを販売した。

# 正味財産増減計算書

自 平成 29 年 4 月 1 日  
至 平成 30 年 3 月 31 日

(単位 円)

科 目	本 年 度	前 年 度	比 較
<b>I 一般正味財産増減の部</b>			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	476,000	476,000	—
受取会費	18,595,390	19,886,536	△ 1,291,146
利用料金収益	210,059,103	179,566,278	△ 30,492,825
事業収益	352,156,889	202,732,129	149,424,760
受取補助金等	1,639,042,663	1,246,366,764	392,675,899
受取寄付金	21,449,891	17,052,820	△ 4,397,071
雑収益	146,186,612	21,782,439	124,404,173
経常収益計	2,387,966,548	1,687,862,966	700,103,582
(2) 経常費用			
事業費用	2,369,430,464	1,680,370,816	689,059,648
管理費用	10,661,230	9,358,702	1,302,528
経常費用計	2,380,091,694	1,689,729,518	690,362,176
(うち人件費)	559,930,399	318,086,024	241,844,375
評価損益等調整前当期経常増減額	7,874,854	△ 1,866,552	9,741,406
評価損益等計	—	—	—
当期経常増減額	7,874,854	△ 1,866,552	9,741,406
税引前当期一般正味財産増減額	7,874,854	△ 1,866,552	9,741,406
法人税、住民税及び事業税	122,200	72,200	50,000
当期一般正味財産増減額	7,752,654	△ 1,938,752	9,691,406
一般正味財産期首残高	375,646,534	377,585,286	△ 1,938,752
一般正味財産期末残高	383,399,188	375,646,534	7,752,654
<b>II 指定正味財産増減の部</b>			
(1) 受取寄付金	72,371,818	12,690,415	59,681,403
(2) 特定資産運用益	224	—	224
(2) 一般正味財産への振替額	△ 7,147,101	△ 17,052,820	9,905,719
当期指定正味財産増減額	65,224,941	△ 4,362,405	69,587,346
指定正味財産期首残高	134,504,189	138,866,594	△ 4,362,405
指定正味財産期末残高	199,729,130	134,504,189	65,224,941
<b>III 正味財産期末残高</b>	583,128,318	510,150,723	72,977,595

# 正味財産増減計算書内訳表

自 平成 29 年 4 月 1 日  
至 平成 30 年 3 月 31 日

(単位 円)

科 目	公益目的 事業会計	収益事業 等 会 計	法人会計	内部取 引消去	合 計
<b>I 一般正味財産増減の部</b>					
1 経常増減の部					
(1) 経常収益					
基本財産運用益	238,000	-	238,000	-	476,000
受取会費	9,297,695	-	9,297,695	-	18,595,390
利用料金収益	110,108,381	99,950,722	-	-	210,059,103
事業収益	352,156,889	-	-	-	352,156,889
受取補助金等	1,547,817,584	91,225,079	-	-	1,639,042,663
受取寄付金	14,749,891	5,500,000	1,200,000	-	21,449,891
雑収益	12,489,711	133,690,401	6,500	-	146,186,612
経常収益計	2,046,858,151	330,366,202	10,742,195	-	2,387,966,548
(2) 経常費用					
事業費用	2,100,649,261	268,781,203	-	-	2,369,430,464
管理費用	-	-	10,661,230	-	10,661,230
経常費用計	2,100,649,261	268,781,203	10,661,230	-	2,380,091,694
(うち人件費)	492,933,519	64,447,092	2,549,788	-	559,930,399
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 53,791,110	61,584,999	80,965	-	7,874,854
評価損益等計	-	-	-	-	-
当期経常増減額	△ 53,791,110	61,584,999	80,965	-	7,874,854
他会計振替額	59,040,470	△60,249,848	1,209,378	-	-
税引前当期一般正味財産増減額	5,249,360	1,335,151	1,290,343	-	7,874,854
法人税、住民税及び事業税	-	122,200	-	-	122,200
当期一般正味財産増減額	5,249,360	1,212,951	1,290,343	-	7,752,654
一般正味財産期首残高	292,550,747	44,582,397	38,513,390	-	375,646,534
一般正味財産期末残高	297,800,107	45,795,348	39,803,733	-	383,399,188
<b>II 指定正味財産増減の部</b>					
(1) 受取寄付金	59,420,268	1,651,550	11,300,000	-	72,371,818
(2) 特定資産運用益	224	-	-	-	224
(3) 一般正味財産への振替額	△ 7,147,101	-	-	-	△ 7,147,101
当期指定正味財産増減額	52,273,391	1,651,550	11,300,000	-	65,224,941
指定正味財産期首残高	84,504,189	-	50,000,000	-	134,504,189
指定正味財産期末残高	136,777,580	1,651,550	61,300,000	-	199,729,130
<b>III 正味財産期末残高</b>	434,577,687	47,446,898	101,103,733	-	583,128,318

# 貸 借 対 照 表

平成 30 年 3 月 31 日現在

(単位 円)

科 目	本 年 度	前 年 度	比 較
<b>I 資 産 の 部</b>			
1 流 動 資 産			
現金預金	237,540,899	217,830,065	19,710,834
未収金	304,083,271	273,948,737	30,134,534
前払金	1,624,426	1,109,034	515,392
立替金	518	—	518
刊行物	7,407,496	—	7,407,496
預り印紙・証紙	9,284,238	—	9,284,238
流動資産合計	559,940,848	492,887,836	67,053,012
2 固 定 資 産			
基本財産			
基本財産預金	22,600,000	—	22,600,000
投資有価証券	100,000,000	100,000,000	—
基本財産合計	122,600,000	100,000,000	22,600,000
特定資産			
退職給付引当資産	61,778,837	17,388,634	44,390,203
退職給付準備預金	12,437,248	—	12,437,248
事業推進積立金資産	122,469,834	132,497,672	△ 10,027,838
運営調整積立金資産	131,786,962	113,766,963	18,019,999
舞台芸術基金積立資産	40,779,637	34,504,188	6,275,449
夢キラリ文化基金預金	839,484	—	839,484
文化産業交流会館開館30周年記念事業積立資産	15,000,000	—	15,000,000
びわ湖ホール20周年記念事業積立資産	3,000,000	1,748,770	1,251,230
什器備品	1	1	—
ソフトウェア	3,722,760	—	3,722,760
特定資産合計	391,814,763	299,906,228	91,908,535
その他固定資産			
車両運搬具	1	1	—
什器備品	2	51,500	△ 51,498
その他固定資産合計	3	51,501	△ 51,498
固定資産合計	514,414,766	399,957,729	114,457,037
資産合計	1,074,355,614	892,845,565	181,510,049
<b>II 負 債 の 部</b>			
1 流 動 負 債			
未払金	258,365,022	256,923,824	1,441,198
前受金	77,828,368	76,682,173	1,146,195
預り金	38,223,067	6,853,235	31,369,832
未払法人税等	122,200	72,200	50,000
県使用料預り金	1,580,502	1,134,809	445,693
未払消費税等	25,035,600	6,730,900	18,304,700
賞与引当金	28,293,700	16,909,067	11,384,633
流動負債合計	429,448,459	365,306,208	64,142,251
2 固 定 負 債			
退職給付引当金	61,778,837	17,388,634	44,390,203
固定負債合計	61,778,837	17,388,634	44,390,203
負債合計	491,227,296	382,694,842	108,532,454

科 目	本 年 度	前 年 度	比 較
<b>Ⅲ 正味財産の部</b>			
1 指定正味財産			
指定正味財産合計	199,729,130	134,504,189	65,224,941
(うち基本財産への充当額)	(122,600,000)	(100,000,000)	(22,600,000)
(うち特定資産への充当額)	(77,129,130)	(34,504,189)	(42,624,941)
2 一般正味財産	383,399,188	375,646,534	7,752,654
(うち特定資産への充当額)	(252,906,796)	(248,013,405)	(4,893,391)
正味財産合計	583,128,318	510,150,723	72,977,595
負債及び正味財産合計	1,074,355,614	892,845,565	181,510,049

# 貸借対照表内訳表

平成 30 年 3 月 31 日現在

(単位 円)

科 目	公益目的 事業会計	収益事業 等 会 計	法人会計	内部取 引消去	合 計
<b>I 資産の部</b>					
1 流動資産					
現金預金	144,129,798	50,898,232	42,512,869	—	237,540,899
未収金	294,533,586	9,519,718	29,967	—	304,083,271
前払金	1,485,366	136,060	3,000	—	1,624,426
立替金	—	—	518	—	518
刊行物	7,407,496	—	—	—	7,407,496
預り印紙・証紙	—	9,284,238	—	—	9,284,238
流動資産合計	447,556,246	69,838,248	42,546,354	—	559,940,848
2 固定資産					
基本財産					
基本財産預金	11,300,000	—	11,300,000	—	22,600,000
投資有価証券	50,000,000	—	50,000,000	—	100,000,000
基本財産合計	61,300,000	—	61,300,000	—	122,600,000
特定資産					
退職給付引当資産	52,687,037	8,567,960	523,840	—	61,778,837
退職給付準備預金	10,697,948	1,732,800	6,500	—	12,437,248
事業推進積立金資産	122,469,834	—	—	—	122,469,834
運営調整積立金資産	131,786,962	—	—	—	131,786,962
舞台芸術基金積立資産	40,779,637	—	—	—	40,779,637
夢キラリ文化基金預金	839,484	—	—	—	839,484
文化産業交流会館 30 周年 記念事業積立資産	15,000,000	—	—	—	15,000,000
びわ湖ホール 20 周年記念 事業積立資産	3,000,000	—	—	—	3,000,000
什器備品	1	—	—	—	1
ソフトウェア	3,722,760	—	—	—	3,722,760
特定資産合計	380,983,663	10,300,760	530,340	—	391,814,763
その他固定資産					
車両運搬具	1	—	—	—	1
什器備品	1	—	1	—	2
その他固定資産合計	2	—	1	—	3
固定資産合計	442,283,665	10,300,760	61,830,341	—	514,414,766
資産合計	889,839,911	80,139,008	104,376,695	—	1,074,355,614
<b>II 負債の部</b>					
1 流動負債					
未払金	248,557,026	9,353,032	454,964	—	258,365,022
前受金	72,680,928	5,147,440	—	—	77,828,368
預り金	37,031,415	1,107,405	84,247	—	38,223,067
未払法人税等	—	122,200	—	—	122,200
県使用料預り金	—	—	1,580,502	—	1,580,502
未払消費税等	20,011,812	4,567,080	456,708	—	25,035,600
賞与引当金	24,294,006	3,826,993	172,701	—	28,293,700
流動負債合計	402,575,187	24,124,150	2,749,122	—	429,448,459
2 固定負債					
退職給付引当金	52,687,037	8,567,960	523,840	—	61,778,837
固定負債合計	52,687,037	8,567,960	523,840	—	61,778,837
負債合計	455,262,224	32,692,110	3,272,962	—	491,227,296

科 目	公益目的 事業会計	収益事業 等 会 計	法人会計	内部取 引消去	合 計
<b>Ⅲ 正味財産の部</b>					
1 指定正味財産					
指定正味財産合計	136,777,580	1,651,550	61,300,000	—	199,729,130
(うち基本財産への充当額)	(61,300,000)	(—)	(61,300,000)	(—)	(122,600,000)
(うち特定資産への充当額)	(75,477,580)	(1,651,550)	(—)	(—)	(77,129,130)
2 一般正味財産	297,800,107	45,795,348	39,803,733	—	383,399,188
(うち特定資産への充当額)	(252,819,046)	(81,250)	(6,500)	(—)	(252,906,796)
正味財産合計	434,577,687	47,446,898	101,103,733	—	583,128,318
負債及び正味財産合計	889,839,911	80,139,008	104,376,695	—	1,074,355,614